

TYPE OF INDUSTRY

情報通信研究機構

# NICT 先端研究

39

コンピュータ同士をつなぐ通信網として発展してきたインターネットは、SNSや大容量の動画配信を中心とするコミュニケーション基盤として進化を遂げてきた。今後、膨

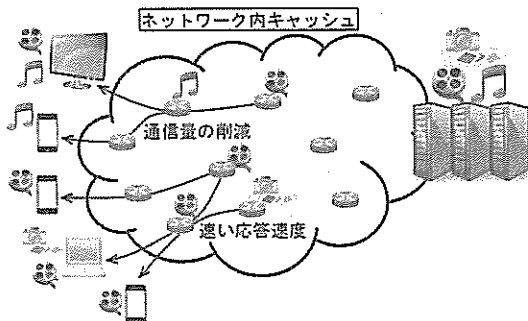
大な数のセンサーが指回ネットワーク（Iば、その情報をキャットが可能になる。まい。なるIoT（モノのCN）と呼ばれる通シユから取り出して転た、通信量が削減されインターネット）や多信技術の研究に取り組送する。この仕組みにること、ネットワークのユーザーが同時にんでいる。ICNでより、サーバーやクラク全体の省エネルギー視聴する高精細ライブは、サーバーやクラウドへアクセスが集中化にも貢献する。ストリーミングを表現ドからの情報をネットせず、ユーザーは近くこのように、ユーザーするため、より高速なワーク装置が転送するのキャットシユから情報一およびサービス提供つ低遅延な、そして高際に一時的にそれを保が得られるため、応答者双方にとってメリッ品質で安定した通信技持（キャットシユ）し、速度が速くデータ欠損トがあるICNである術が求められている。以後同じ情報を要求す率が低い、品質の良いが、その実現に向けてそこで我々は「情報る別のユーザーがいれ通信サービスを受ける解決すべき課題は多

## キャット シユ活用 高品質通信・省エネ実現

情報通信研究機構・ネットワークシステム研究所 ネットワーク基盤研究室 マネージャー 朝枝 仁  
日本IBM、仏国立情報科学自動制御研究所、慶応義塾大学院特任准教授を経て、12年NICTに入所。博士（政策・メディア）。経路制御、情報指向ネットワークなどの研究および標準化活動に従事。電子情報通信学会ICN特別研究委員長。



科学技術・大学



### ICNのイメージ

いかにしてネットワークが知性を持ち、ICNを最大限活用できるサービスをどのような構築すべきか、ネットワークと人間のせめぎ合いが将来網の価値を決める。  
（火曜日掲載、次回から未来ICT研究所編）

行つが、時々刻々と変どの情報をどのネットワーク装置でキャットユすることが最適なを決めることも簡単ではない。もちろん人気度の高い情報はどキャットシユの効果は顕著に現れるが、同じ情報でネットワークが占有されてしまつては逆効果である。